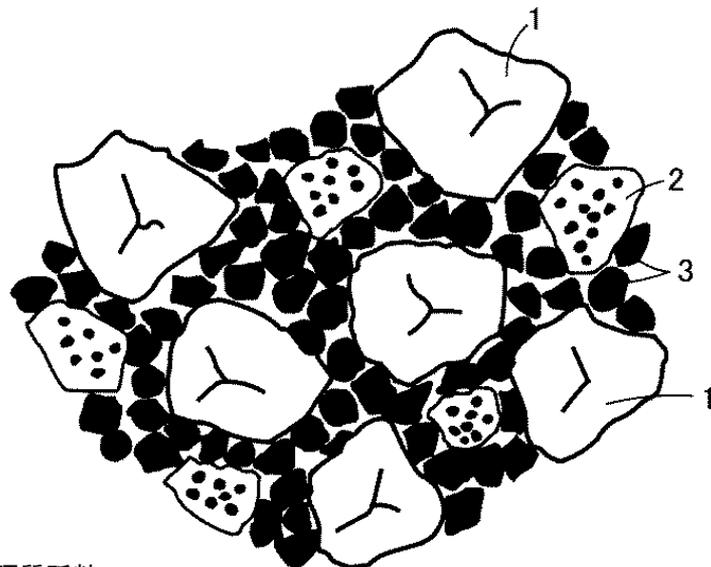


発明の名称	焼結ビトリファイド超仕上げ砥石		
出願人/権利人	株式会社ミズホ	発明者	松森 昇、鍋本 季之、中澤 稔雄
出願日	平成27年4月2日	出願番号	2015-075918
公開番号	2016-196050	特許番号	6446313
法的状態	登録中		

代表図



- 1 硬質砥粒
2 軟質砥粒
3 焼結性ビトリファイド結合剤

発明の概要

超仕上げ加工に用いられる焼結ビトリファイド超仕上げ砥石

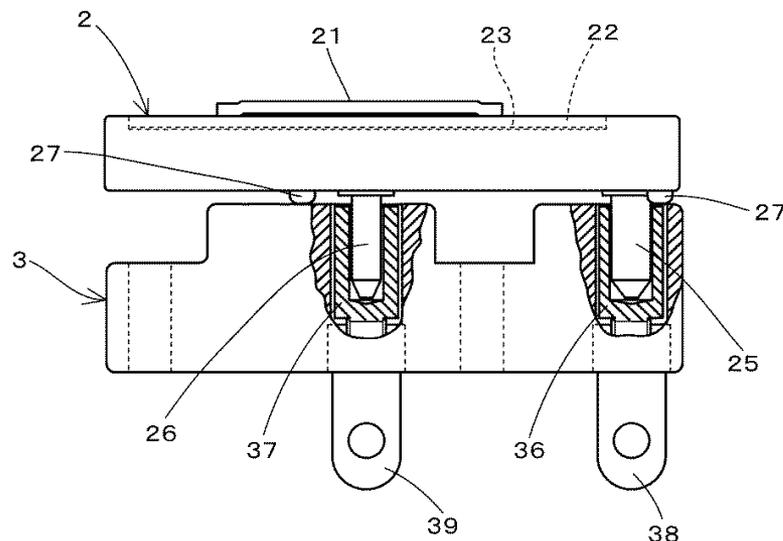
特徴

一般的に研削加工の温度が高い場合には、冷却性の良い水溶性油が用いられ、性質向上のために界面活性剤が使用されている。しかし界面活性剤の一部は、水に不溶性の粘着物となって砥石表面に付着し、激しい目詰まりを起こす。

そこで、本発明の低融性ホウケイ酸塩ガラス組成物粉末を用いることで、目詰まりのない超仕上げ加工のできる焼結ビトリファイド超仕上げ砥石ができる。しかも焼結させることによって高硬度で砥石に所要の曲げ強度も有するものになるので、超仕上げ加工時の摩耗速度は遅く、砥石の仕上げ比は高まって砥石強度にも優れたものになる。

発明の名称	オゾン発生ユニットおよびオゾン発生装置		
出願人/権利人	株式会社タムラテコ	発明者	田村 耕三、戎脇 登
出願日	平成27年10月8日	出願番号	2015-200303
公開番号	2017-71533	特許番号	6442391
法的状態	登録中		

代表図



- 2 オゾン発生体 3 発生体取付金具組
 21 電極棒 22 誘電体 23 面状電極
 25 太オスピン(第1のオスピン) 26 細オスピン(第2のオスピン)
 27 スペーサ突起 36 大メス接点(第1のメス接点)
 37 小メス接点(第2のメス接点) 38,39 一對の接点取付板

発明の概要

電極に付着した異物を簡便に除去し、無声放電方式によりオゾンが発生させるオゾン発生装置

特徴

小型の無声放電方式オゾン発生部には異物が付着しやすく掃除が困難である。

本発明のオゾン発生ユニットは、無声放電機能を有するオゾン発生体、およびオゾン発生体を着脱可能な発生体取付金具組を有する。オゾン発生体は、オゾン発生本体および発生本体保持具からなり、オゾン発生本体は、電極棒(線状電極)、誘電体および面状電極等からなる。各部分は着脱可能なため、オゾン発生体の洗浄は、水で希釈された中性洗剤の中で、歯ブラシ等の毛が柔らかいブラシにより、電極棒と誘電体との間の付着物を容易に除去できる。

ケミカル

食品本来の風味を損なわない苦味抑制剤

発明の名称	苦味抑制剤		
出願人/権利人	長岡香料株式会社	発明者	橋本 清二、東 主祐、瀧本 龍昇、戸張 純司、平田 望
出願日	平成29年5月18日	出願番号	2017-098703
公開番号	2018-191581	特許番号	6296473
法的状態	登録中		

代表図(図面なし)

【請求項1】

イソブチルアンゲレートを有効成分として含有し、柑橘類、コーヒー、茶、カカオおよびホップからなる群より選択される少なくとも1種の食材に由来する苦味を抑制するための苦味抑制剤。

発明の概要

飲食物が有する本来の風味を損なうことなく、苦味を抑制することができる苦味抑制剤

特徴

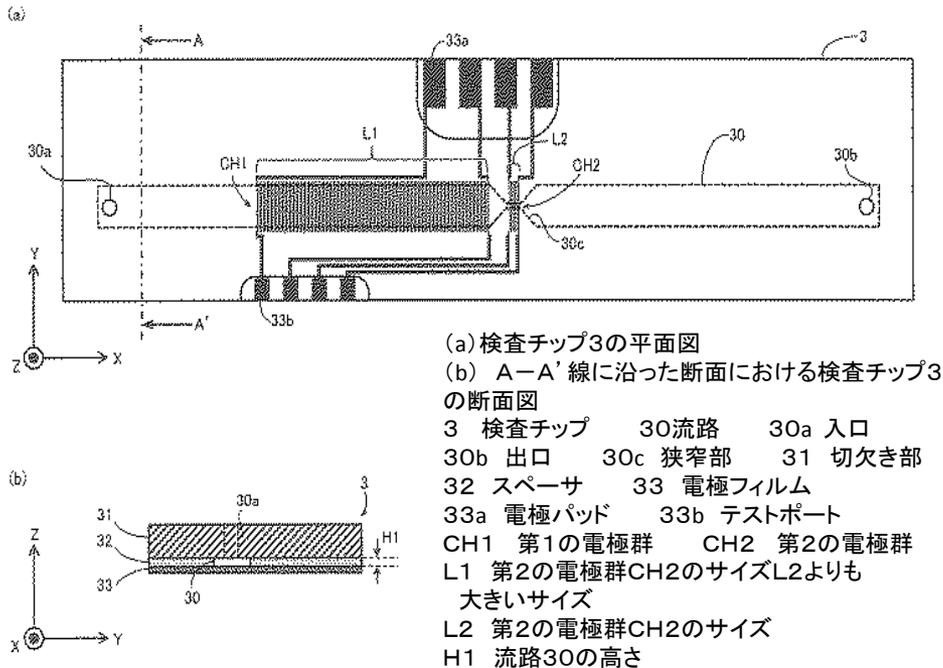
本発明の苦味抑制剤を、苦味を有する飲食品に添加することによって、飲食物が有する本来の風味を損なうことなく苦味が抑制された苦味低減飲食品が得られる。苦味抑制剤は、アンゲリカ酸エステルの少なくとも1種を有効成分として含有する。アンゲリカ酸エステルは化学合成によって得られたものや天然物由来のものでよい。天然物由来では、ローマンカミツレ由来のアンゲリカ酸エステルが好ましい。ローマンカミツレの精油は、ローマンカミツレを水蒸気蒸留、圧搾などに供することにより得られる。本発明は食品産業分野や、医薬・医薬部外品産業分野において好適に使用される。

関連分野

医薬、飲食、医療・保健衛生

発明の名称	検査チップ、検査装置、及び検査システム		
出願人/権利人	株式会社AFIテクノロジー	発明者	円城寺 隆治、脇坂 嘉一、内田 諭、加藤 英子、高野 雅代、和田 眞昌
出願日	平成29年5月18日	出願番号	2017-098882
公開番号	2018-194456	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



発明の概要

試料液中の細菌や細胞等の誘電体粒子を検査する検査チップ、検査装置、及び検査システム

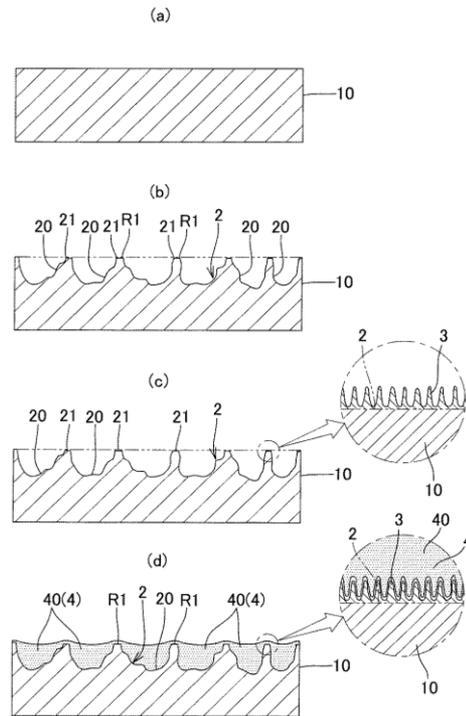
特徴

本発明は、試料液中に含まれる細菌や細胞等の誘電体粒子の検査を行い易くすることができる検査チップ、検査装置および検査システムである。検査チップは、流路と、流路の長手方向に並んだ複数の電極であって交互に配置された2組の電極を含む電極群とを備えている。検査チップによって、電機接続や流路の接続が簡単に行える。また、誘電泳動装置において細菌などの捕集後、使い捨てしたり、使い回ししたりすることが容易に行える。本システムの検査対象は、細菌や細胞に限らず、誘電体粒子であればよく、例えば微生物や、真菌、芽胞、ウイルスであってもよい。

発明の名称	触媒又は吸着材担持体の製造方法、および触媒又は吸着材担持体		
出願人/権利人	APSジャパン株式会社	発明者	渡邊 剛文、山口 雅夫、渡邊 輝夫、渡邊 秀満、渡邊 泰之
出願日	平成29年5月30日	出願番号	2017-106348
公開番号	2018-202272	特許番号	6332821
法的状態	登録中		

代表図

- 2 凹凸粗面
3 多孔質皮膜
4 粒子
10 金属基材
20 凹部
21 開口縁
40 触媒粒子4の層
R1 領域



発明の概要

触媒又は吸着材粒子の脱落も防止できる触媒または吸着材担持体の製造方法

特徴

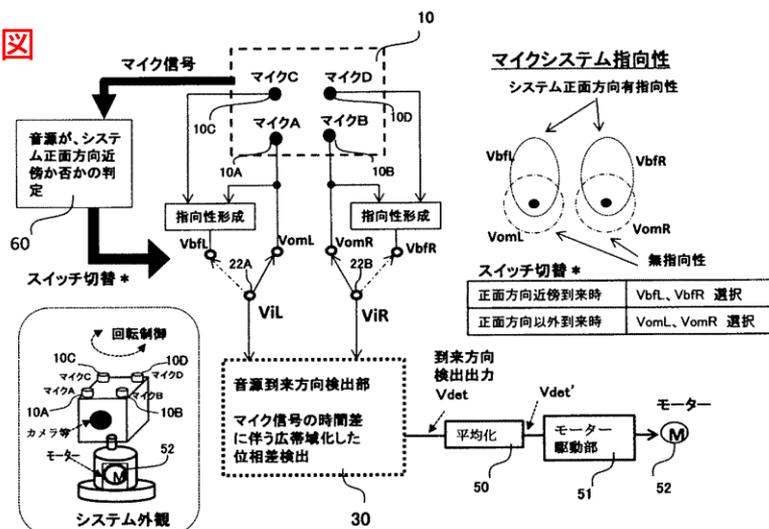
高い光触媒効果が得られる触媒担持体は、凹凸粗面の表面と光触媒の層との間に大きな隙間が生じてしまう場合がある。

本発明は、凹凸粗面とされた金属基材表面にアルマイト加工を行い、凹凸粗面に沿った多孔質皮膜を形成する。そのため、凹部内面と触媒粒子の層との間の密着度が向上し、剥がれを防止できるとともに、触媒粒子が付着しにくかった凹部の開口縁(元の金属基材表面)上にも触媒粒子が担持され、担持量をさらに増大できる。

本発明は、光触媒以外の触媒や吸着材にも同様に適用できる。

発明の名称	音源方向追従システム		
出願人/権利人	井上 時子	発明者	高山一男、中村正孝
出願日	平成29年6月7日	出願番号	2017-128075
公開番号	2018-207463	特許番号	6375475
法的状態	登録中		

代表図



- 10、10A、10B、10C、10D: 平面に配置された4個の無指向性マイク
 22A: 指向性切り替え用スイッチA 22B: 指向性切り替え用スイッチB
 30: 音源方向検出ブロック(広帯域化した位相差検出)
 50: 到来方向検出平均化部 51: 音源方向追従用モーター駆動部
 52: 音源方向追従用モーター
 60: システム正面方向近傍からの音源到来方向検出部

発明の概要

マイク、カメラを回転機構により音源方向に自動的に追従するシステム

特徴

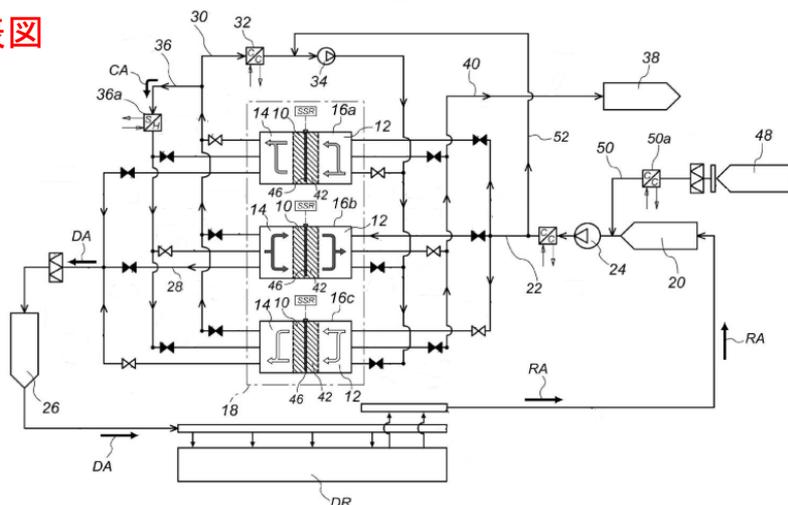
本発明は、機器の正面方向を広帯域周波数成分を有する音源方向に追従させるため、2系統のマイク信号の時間差に伴う広帯域化した位相差検出結果の進み遅れを判定し、フィードバック制御に進み遅れが無くなる方向に回転制御するシステムである。機器の正面方向が回転制御により音源方向近傍に位置しているかを検出することで、音源方向近傍に位置している場合は一定距離の配置の指向性特性を有するマイクシステム信号出力を使用した回転制御を行い、音源方向近傍で無い場合は一定距離の無指向性マイク信号を利用した回転制御を行う。

業務用機械

吸湿材の再生が容易な除湿装置

発明の名称	除湿装置		
出願人/権利人	カンケンテクノ株式会社	発明者	今村 啓志、嶋野 貴志
出願日	平成28年8月17日	出願番号	2018-534209
公開番号	WO2018/033944	特許番号	6446603
法的状態	登録中		

代表図



10: 吸湿構造体, 12: 第1室, 14: 第2室, 16a・16b・16c: 吸湿器, 18: 固定式吸湿塔, 20: 戻りエア入口, 22: 戻りエア供給流路, 24: 処理ファン, 26: ドライエア出口, 28: ドライエア送給流路, 30: 冷却回路, 32: 冷却装置, 34: 冷却ファン, 36: 再生エア送給流路, 36a: 補助加熱手段, 38: 再生排気口, 40: 再生エア排出流路, 42: 吸湿材, 44: ケーシング, 46: 加熱手段, 48: 外気入口, 50: 外気導入配管, 50a: 冷却装置, 52: エア補給配管, DA: ドライエア, DR: 調湿空間, RA: 戻りエア, CA: 再生エア.

発明の概要

ドライルームなどの調湿空間に対して低湿度エアを供給することが可能な除湿装置

特徴

従来の除湿装置では、吸湿剤の再生時に多大なエネルギーが必要で、ランニングコストが高かった。

本発明では、吸湿構造体に用いる吸湿材として、無機の多孔質材料からなる物理的吸湿材そのものを比表面積の大きな粒状又は塊状にして使用しているため、吸湿構造体の単位容積当たりの吸湿量を極大化できる。そして、吸湿材を加熱して吸湿力を再生する際の加熱温度を300℃前後まで上げられるので、水分と一緒に吸湿材から高沸点化合物を除去できる。さらに、高温気体が下側から入り上側へと抜ける気体の通流がスムーズで効率が良く、ランニングコストの低減にも繋がる。

関連分野

電気機械、建設・土木